

コロナに負けない新たな試み 初のリモート将棋大会



コロナ禍で多くの人が集まることが困難な中、オンライン会議システムを使った視覚障害者リモート将棋大会が、2020年12月12、13日に開催された。日本視覚障害者団体連合（日視連）では例年、全国視覚障害者将棋大会を開催していたが、リモートでの実施は初めての試み。有段者・級位者の部各16人が熱戦をくり広げ、有段者の部は石川准さん（64歳、静岡県）、級位者の部は石黒知頼さん（27歳、新潟県）が優勝の栄冠に輝いた。
（本誌）

大会にZoomを利用

大会初日の12日は、有段者・級位者の部それぞれ16名による予選トーナメントが行なわれ、決勝トーナメントに進出する各8名を決定した。

13日に行なわれた開会式で日視連の竹下義樹会長は、コロナ禍の中で迷ったものの「たくさんの将棋愛好家から、ぜひとも開催してほしいという声」が寄せられたため、リモート大会の開催を決定したと経緯を説明。将棋に限らず、視覚障害者の交流のあり方も模索する新たな挑戦だと述べた。

大会を後援している日本将棋連盟会長の佐藤康光九段はビデオメッセージを寄せ、「リモートでの開催でも、変わらずに将棋を楽しんでほしい」と述べ、「将棋連盟としても感染防止に努めながら、次回以降も協力していきたい」との展望も示した。

今大会の審判長を務めた中川大輔八段は、平成25（2013）年